

平成22年度第2回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会議事録

日 時 平成22年11月15日（月）

場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター 4階研修室

出席者 17名（欠席3名）

- 議 題
- 1 障がい者計画の要望について
 - 2 協議会の進め方について

議事概要

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、「鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会」を開催させていただきます。本日の出席者数は17名であり、出席者が過半数を上回っておりますので、協議会は成立いたします。

それでは、開催にあたり工藤会長よりご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

(会長)

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

本日の議題でもあります、現在、進められております「障がい者計画」の策定に当たり、本協議会として要望する内容をまとめましたので、委員の皆様にご検討いただきたいと思っております。

また、要望等の調査に、ご協力いただきありがとうございました。

それでは、皆様よろしくをお願いいたします。

(事務局)

これより協議に入りますが、協議会要綱に従いまして会長が議長となり進行いたします。会長よろしくをお願いいたします。

3 議題

議題1 障がい者計画の要望について

(会長が議長となり進行)

それでは、本日の会議次第により進行してまいります。

「障がい者計画の要望について」事務局より説明願います。

(事務局)

前回の協議会で継続となりました、鎌ヶ谷市の今後10年間における「障がい者計画」の策定に当たり、当協議会の要望等について委員の皆様にご調査をお願いした結果並びに専門部会で協議された事項について、専門部会の事務局である「もくせい園」さんにまとめていただきました。内容について、委員の皆様にご審議いただき、当協議会の要望として提出してよろしいかご検討願います。

詳細について「もくせい園」さんから何かご説明はございますか。

(議長)

私の方から説明いたします。

委員の皆様から提出していただきましたご意見・ご要望等を、「もくせい園」でまとめたものを先週お送りしました。その内容をご検討いただいた結果、本日要望事項として決定する予定でございましたが、皆様より本日郵便物が届いたというお話であり、この件につきましては申し訳ございませんが、後日とさせていただきます。

それでは、机に置かせていただいた要望書の一部をご覧ください。

これは、前年の専門部会で話し合った内容を、今回要望という形で提出すると前回の協議会で決定されました。私の方で議事録を読ませていただき、二つの部会から要望になると思われる内容を選ばせていただきました。まず、「福祉サービス部会」のテーマは就労支援ということで進めてまいりましたが、この中で、「鎌ヶ谷市には就労支援センターが無く設置していただきたい。」という内容があり、これを要望に上げさせていただきました。二つ目は、「鎌ヶ谷市役所内に求人情報センターを常設していただきたい。」ということについて要望する予定でしたが、実は、市役所2階の商工振興課で市内在住の方を対象とした就職相談・求人紹介を実施しており、ハローワークの出先機関で無いことがわかりました。そこで、現状を踏まえた上で、商工振興課では求人ファイルの閲覧のみであるため、特に、環境の変化や対人関係等に問題のある精神障がい者は利用しにくく、障がい特性を理解した上で話を聞いて就職相談にあたる職員の配置についてということに内容を変更したいので、ご了承いただきたいと思っております。

<資料の配布>

資料が届いていないということであり、改めて配布いたします。

今お配りしたものが要望書になり、鎌ヶ谷市長宛に私の名前で要望いたします。

皆様の団体からの要望がP1からP14であり、私が今補足で説明した部分がP15であります。それでは、最後のP16の「個別支援部会」からの要望であります。部会のテーマは相談支援事業所が抱えている困難ケースや各委員が関係している困難ケースを議題として、共通理解を深め解決に向けての助言や相談支援ができるネットワークの構築であります。具体的な要望につきましては、先の福祉サー

ビス部会とは違い困難ケースの話し合いであり、要望につながる内容は特にはありませんが、障がい者を身内に持つ立場として、多くの関係者が集まり困難ケース解決に向けて話し合いが出来た事はとても心強く、この部会を充実させてほしいという部会のまとめがあり、この内容を個別支援部会の要望とさせていただきたいと思えます。こちらの手違いで、先に皆様にお読みいただき検討していただきたいと思いましたが、これからお読みいただき、私の方から改めてご意見をお伺いいたします。それで、特に意見が無い場合は、改めて事務局に自立支援協議会の要望書として提出させていただきますが、それで了解していただけますでしょうか。

<了解>

議題の2 協議会の進め方について

(議長)

「協議会の進め方について」事務局より説明願います。

(事務局)

資料により説明いたします。

初めに、県から来年度予算で自立支援協議会強化のための事業を行ってこないかという話がありました。そこで、先進地の視察という形で県に予算書を提出いたしました。他にも希望があり予算も限られており、額を検討した結果、今回は辞退いたしました。

そこで、代わりに二つの取り組みを行いました。一つは京都市のホームページからの資料で、もう一つは浦安市に行ってきた資料です。

浦安市の自立支援協議会は三段式になっており、自立支援協議会は、年三、四回開催され、その下に幹事会が毎月開催されております。その下にプロジェクトチームがあり、鎌ヶ谷でいう部会のようなものですが私は幹事会に参加させていただきました。いただいた資料に、浦安市の自立支援協議会の活動内容が書いてありますので、皆様にお配りしご報告したいと思います。

<資料の説明>

浦安市は四つのプロジェクトを立ち上げており、その内の「事業者支援・制度プロジェクト」による浦安就職フェアの取り組みについて紹介する。

議論の中でも、深刻な課題が障がい福祉分野の担い手不足であり、その一方で支援を必要とする人たちは増えている。障がいのある人の普通の暮らしを実現するためには、その想いを当事者と共有した支援者が必要である。プロジェクトでは、「浦安が目指す誰もが安心して共に暮らせるまちづくりに一緒に参画してくれる仲間を増やそう。障がい福祉に従事する私たちが直接自分たちの仕事について語る場を作ろう。」という提案があり、「浦安就職フェア」を開催することになった。

浦安市は人口16万人で入所施設はありません。私が伺った幹事会では、これらの問題を江戸川区・市川市・船橋市にお願いしている現状であり、これらを何とかしたいということで働く方を求めるという取り組みを、協議会の委員として障がい福祉の課長さんを初めNPOの方が参加しており、事業所の方も非常に多く参加しているという印象でありました。

もう一点は、京都市の自立支援協議会についてホームページからの資料を説明させていただきます。

<資料の説明>

自立支援協議会はどのような機能を有するところか

- ① 一人ひとりの障害のある市民のサービス利用調整と協働支援体制をつくる個別支援機能
- ② 地域における障害保健福祉に関する情報の収集と提供・普及啓発を行う情報支援機能
- ③ 障害のある市民を地域で支えるネットワーク構築と社会資源を開発する地域支援機能
- ④ 地域ニーズや課題を把握し、必要に応じて事業創設・施策反映等につなぐ施策形成機能

地域課題の把握のためのアンケート調査による課題の抽出

- ① 緊急時の支援体制の整備が必要
- ② 居住支援、ショートステイ等の充実をはかること
- ③ 連携が図りやすくなり、事業所同士が助け合えるようなシステムづくり
- ④ 人材確保・育成、財政面、労働条件、設備に関わる内容の充実をはかること
- ⑤ 制度利用の枠組みにおいても、各省が畏服しサービスをより利用しやすいものにしていく

そして、最後の資料ですが、浦安市には入所施設がないということですが、立派なワークステーションが出来ております。こちらは、是非見学をしていただきたいということでありました。以上、浦安と京都の状況であります。

なお、浦安市は鎌ヶ谷市よりも人口が多いのですが、平均年齢が非常に若いのが特徴であり、知的・精神障がい者の割合は浦安が多く、身体障がい者は鎌ヶ谷が多くなります。これは、おそらく半分以上の方が高齢になり、「疾患等で身体障がいになる。」つまり、高齢者の多い町ほど身体障がい者手帳を持っている割合が多くなる。浦安の自立支援協議会幹事会では、高齢者に対する問題について、活発に議論を行なっておりました。

自立支援協議会として要望を上げることは、重要な役割だと思います。その要望を、鎌ケ谷市の中にどう啓発して、それを、お互いが共有してネットワークを作っていくのか、それを政策として高めるには何が必要か考えていく場合、もう一步踏み込んだご理解をお願いしたいと思います。行政で出来るものは限られております。

例えば、災害時における要望もたくさんありますが、浦安市では災害時にも丈夫な冷蔵庫の中に緊急時に必要な個人情報をペットボトルに入れて置き、駆けつけた救急隊等がその内容を見て対応する取り組みなどは、莫大な予算を必要としないものであり可能な取り組みです。

昭和46年に鎌ケ谷市が誕生しますが、これを記録した16ミリ映画を見ましたが特別養護老人ホームが出来ると説明しています。これは鎌ケ谷市の直営ではなく、おそらく、市川・習志野などと組合を作りホームを持った時代があったと聞いておりますが、公設のホームは現在ありません。今でも特別養護老人ホームへの待機の方は沢山おりますが、これを公設で行うことは出来ないことは十分に理解をしていただきたいと思います。それでは、どのようなことが考えられるか自立支援協議会が非常に大きな役割を果たすと考えております。前回の個別部会でのお話で、支援学校の先生から身体障がい者にならない予防の話があったと思いますが、高齢者が障がい者手帳を取る割合が多くなる要因であるメタボや血管系の病気の予防で少しでも身体障がいの発生を減らすことが出来るのではないかと、それは、京都の例でいう「普及啓発という地域における障がい保健福祉における情報の収集と普及」をやる必要が有るのではないかと思います。この、障がい者自立支援協議会が鎌ケ谷市にある「ニーズは何か」「足りないものは何か」「充分にあるものは何か」「足りないものはどうすればよいか」「あればどうすれば有効に使うことができるか」を協議していただきたいと思います。

ネットを見たのですが、八千代市に身体障害者福祉会があり就労継続の施設を運営しており、市から手話通訳設置事業や手話派遣事業を受託し、その他講座等を行っております。また、知的障がい者の母親が世田谷区に行った時の報告を聞いたのですが、利用する事業については、まず事業所に相談してこれに対する行政の手続きの説明をしてくれるそうです。これらについて鎌ケ谷市では障がい福祉課が行っておりますが、鎌ケ谷市でない所に視点をずらして考えることも必要です。

鎌ケ谷市に暮らす色々な方、活動している事業所の方からこういうサービスが必要で私たちはこれが出来ます。行政はこれをやってほしいなど話し合っただけです。今回、要望書を作っていただきましたが、第一歩だと思っております。今日お話ししたのは私が進めたいと考えている方向です。皆様のご意見を伺います。

(議長)

鎌ケ谷市の自立支援協議会が、何をしながら、どういう方向に進んで行くかを皆

さんで共通の目的意識を持って進むことが第一課題であろうと自立支援協議会に対する考え方を説明いただきました。今回2回目の開催であり、自立支援協議会は何をする組織なのかとご理解はいただけておりますか。

(委員)

個別の部会が二つあって、個別の課題を皆さんがそれぞれ持っているのですが、そこから上がってきた課題をどう発展させ広げていくことだと思います。

(委員)

部会の中で話し合われたものが協議会に上がった時に、その中で何が必要でどういうものが出来ればいいのか、問題を出すことが出来てもどういうふうに解決していくのか、ここから何処に投げていくのか、予算の関係や協議会の決定権など、今は障がい者計画について要望事項で協議をしているが、今度はどのような目標を持って協議会が進んで行くのかなと思っています。

(議長)

前回の協議会につきましては、障がい者計画の見直し時期に合わせて話し合う目標があったのは確かです。今度は協議会としてどういう方向性を持って話し合っていくのかですが、先ほどお話がありました、部会で話し合った内容をこの協議会に上げて話し合うのは当然ですが、それ以外に、先ほどお話のあった京都の例でアンケートなどの把握から入っていく形など、どのように市の方にフィードバックしていくかの手順が定義されていない状況です。

(事務局)

障がい者自立支援協議会というのは、障害者自立支援法の中に明確に位置づけられているもので、先ほど申し上げましたようにコーディネート機能を持たされている中で、京都でも四つの機能を有しそれで動き始めれば良いのではないのでしょうか。ここで色々な制度を作るとか、ここで審議をしたり協議をしたり、実際にはこういう制度なら鎌ヶ谷市で使えるので市が受けてくれませんか、私はこう思いますと出てきた重要な地域のニーズ、障がい者のニーズを吸い上げてそれを精査して施策につなげる役割はぜひやっていただきたい。

(議長)

自立支援協議会として市の施策に対し私ども外部組織として、市に対し意見なりを取りまとめて提案出来るということによろしいでしょうか。

(事務局)

それと、皆様は事業所の方も公的機関の方もおり、お互いにネットワーク作っていけばお互いに持っている施設もそうですが、何か伝わっていないものが見えて来ると思います。そういう発見や知っていただく役割は大きいと思います。

(議長)

今年度の開催は後1回ですが、任期は25年3月までありますので、協議会とし

て何を話し合うか、京都の事例で地域の課題の把握という一項があり、課長の方から鎌ヶ谷市として何が一番問題で何を話し合っていく必要があるかというあたりをテーマにするのもいいかと思います。今回たまたま障がい者計画に関して、障がい者・健全者にアンケート調査を実施しております。そのアンケートの内容の結果を参考として、鎌ヶ谷市として障がいを持った方の課題となっているものを選び出し、それについて話し合っていく、アンケートを基にするのであれば、集計結果はいつ発表できますか。

(事務局)

基本的なものは出来ており、11月26日に障がい者計画策定委員会がありますがそこで報告出来るかと思います。

(会長)

私が、今お話ししたのは、たまたまアンケート調査をしているのを参考にして、自立支援協議会の方向性を見つけたいと思いましたが、これ以外に別のお考えのある方は意見をお願いいたします。

私の専門は知的障がいであり、知的についての問題やニーズに対してはある程度把握しておりますが、身体・精神の方の問題ニーズについては把握出来ておりません。今回の3障がいを対象にしたアンケート調査は鎌ヶ谷市の問題・課題について知る良い資料になると思います。自立支援協議会としては下部組織の意見を受けるポジションでもあり、京都の資料に有るように鎌ヶ谷市で、いま障がいを持っている方たちの課題についてそれを解決するように知恵を出し合い、また知恵が出ない時やどうしようもない答えになった場合は、それを意見要望という形で、逆に鎌ヶ谷市の施策に反映させていただきたい形のまとめ方でよろしいでしょうか。よろしければ今回のアンケートの中で自立支援協議会のテーマに関係する部分を課長に資料として作っていただき、資料を見た後でどうするか自立支援協議会としてこれだけある課題の中で、どれについて何が一番必要なか施策の中に自立支援協議会として絞込みをして行きたいと思いがいかがでしょうか。

部会の会長さんが2名おりますので、今年度のテーマについてお話をいただけますか。

(部会長)

福祉サービス部会は、昨年度は就労支援センターの必要性について要望を上げさせていただきました。今年度は、居住支援ということで地域に障がい者が生活する拠点となるケアホーム、グループホームなど自立のための入居施設について、アパートを借りて住む人の支援などどうするかをテーマにやっていく予定です。

(部会長)

個別支援部会は、昨年度は事例検討ということで3事例の検討を行ないました。今年度も、個別支援ということで事例検討を行ないますが、事例検討を通して、な

かなか解決の出来ない問題を抱えている障がいを持っている方々の共通理解をしていく相談支援のネットワークを作っていく。ネットワーク作りから望ましい支援を探るという目的を持って、皆さんに事例を出していただき、そこから必要な支援の方向を探るなかで、課題が出てくれば自立支援協議会の方に出して行きたいと思えます。

(議長)

福祉サービス部会長から、テーマが重複するというお話がありましたが、アンケートの設問・回答からは沢山の課題があるはずなので、重複することは無いと思えます。

(部会長)

テーマは重複しませんが、ニーズの把握を行い、そこで何が必要か何を支援していくか皆さんで協議していくわけですが、進め方は福祉サービス部会と同じだなと思えました。

(事務局)

個別部会では課題を出していただき、協議会では課題をどう実現させるか方法論を展開してもらう別のものだと思います。前年度の到達点が就労支援センターの必要性ということではありますが、議論の到達点だと思います。ところが、鎌ヶ谷市の5年間の事業計画に建設計画はありません。それは重要な課題として認識されていないかも知れません。それをどう伝えていくか、「これは重要な課題です。」「こうすれば出来ます。」「他に使える施設はないか。」というものを一歩踏み出した方法を自立支援協議会で考えていただきたい。

(議長)

私の方からアンケートを参考にする提案をしたなかで、福祉サービス部会の進め方が類似しているなどの意見がありましたが、何をしていくかを決定しなければ次回の協議会につながりません。

(委員)

委員長が言ったアンケートを私たち委員にも見せてもらいたいと思えます。必要なものがあれば皆さんで協議して、実現するにはどう方向付けるのか、決定したら市に要望する。この場で決められたことは、それなりの権威があると思えますので、色々なことを知らなければ協議の仕様がありません。アンケートの内容も知りたいし、どれほどのパーセントを表すかも知りたいので、ぜひ、開示していただき、今後の検討資料になると思えます。

(委員)

私たちは精神障がい者の団体ですが、障がい者計画について要望をさせていただきました。内容については入所施設・グループホームを作ってもらいたい。通所施設に参加しているがもっと簡単な仕事をさせてもらいたい。市からの情報提供やア

ドバイスをいただきたい等です。

(委員)

個別に対応している障がい者の相談場所の認知度を高めるにどうしたらよいか。

(委員)

アンケート調査からニーズが見えてくる。

(会長)

今日テーマを決めるのではなく、次回、2月アンケート資料により鎌ケ谷市の課題を検証し協議会の方向付けをして行きたいと思います。

4 閉会

(事務局)

これで鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会を閉会いたします。

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成 23 年 1 月 20 日

氏名 秋澤進一